第１　西米良村人口ビジョン

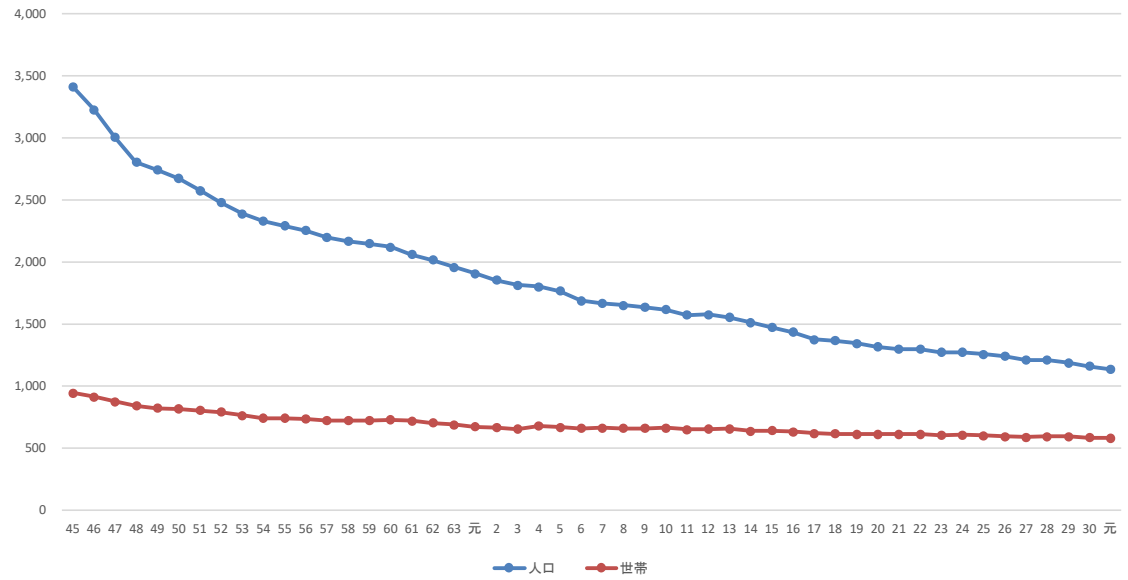
Ⅰ　人口の現状分析

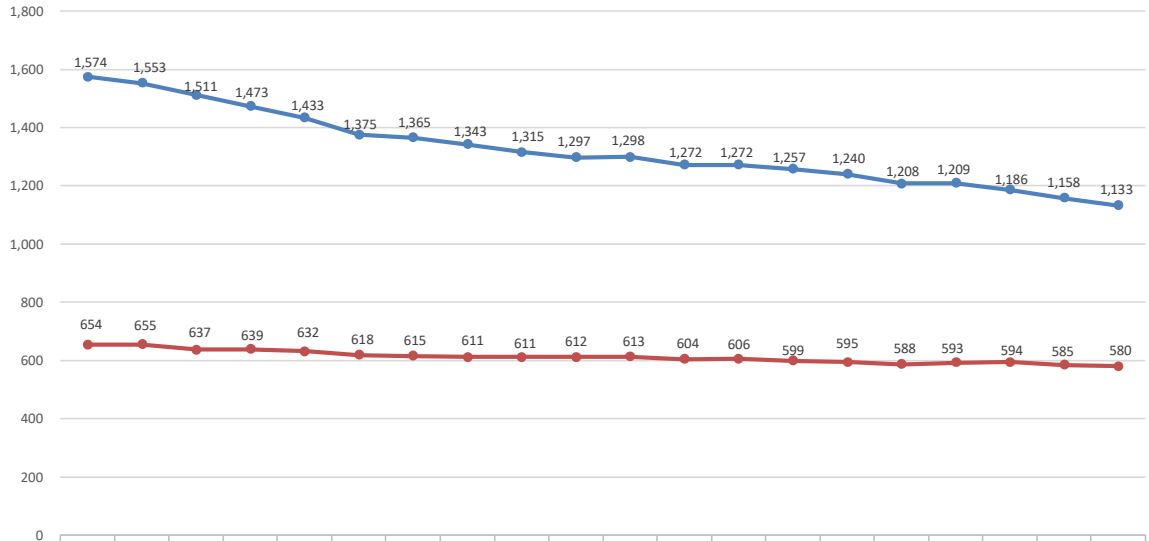
１　人口動向分析

（1）人口・世帯数の推移

長期的な本村の人口・世帯数は減少傾向にあり、昭和 45 年（50 年前）に 3,412 人（944 世帯）でしたが、令和元年は、1,133 人（580 世帯）と約 1/3 に減少しています。

また、短期的な本村の人口・世帯数を見ると、直近 10 年間（H22～R1）に、人口は 87%、世帯数は 95%に減少、直近 20 年間（H12～R1）では、人口は 72%、世帯数は 89%に減少しています。





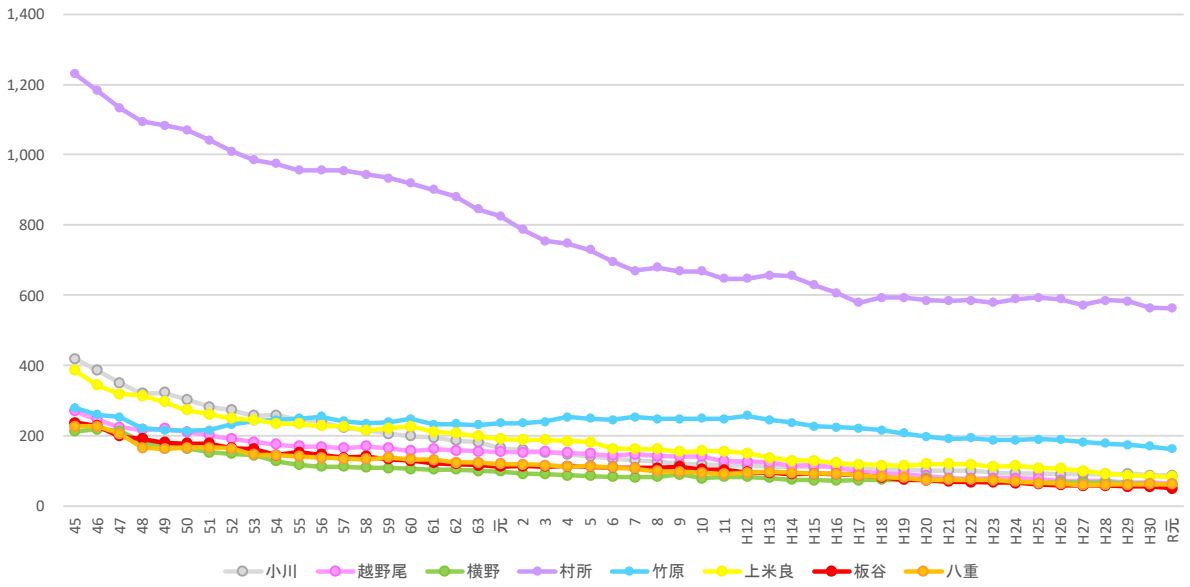
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
人口	1,574	1,553	1,511	1,473	1,433	1,375	1,365	1,343	1,315	1,297	1,298	1,272	1,272	1,257	1,240	1,208	1,209	1,186	1,158	1,133
世帯	654	655	637	639	632	618	615	611	611	612	613	604	606	599	595	588	593	594	585	580

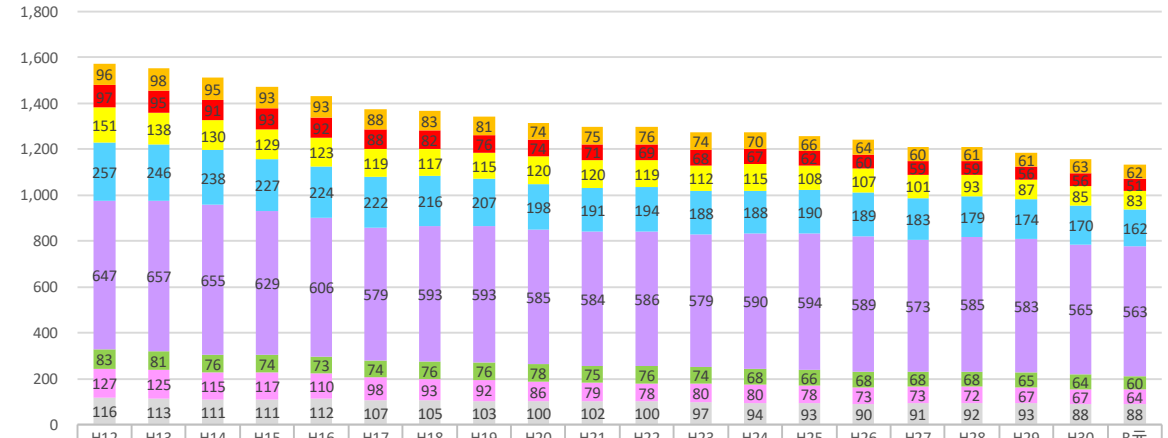
図１　人口・世帯数の推移（出典：住民基本台帳データ（10 月 1 日現在））

（2）地区別人口の推移

長期的な地区別の人口は、全ての地区で減少傾向にあり、昭和 45 年（50 年前）に比べ、小川地区は 21%、越野尾地区は 24%、横野地区は 28%、村所地区は 46%、竹原地区は 58%、上米良地区は 21%、板谷地区は 21%、八重地区は 27%に減少しています。

また、短期的に見ると、直近 10 年間（H22～R1）では、小川地区は 88%、越野尾地区は 82%、横野地区は 79%、村所地区は 96%、竹原地区は 84%、上米良地区は 70%、板谷地区は 74%、八重地区は 82%に減少しています。



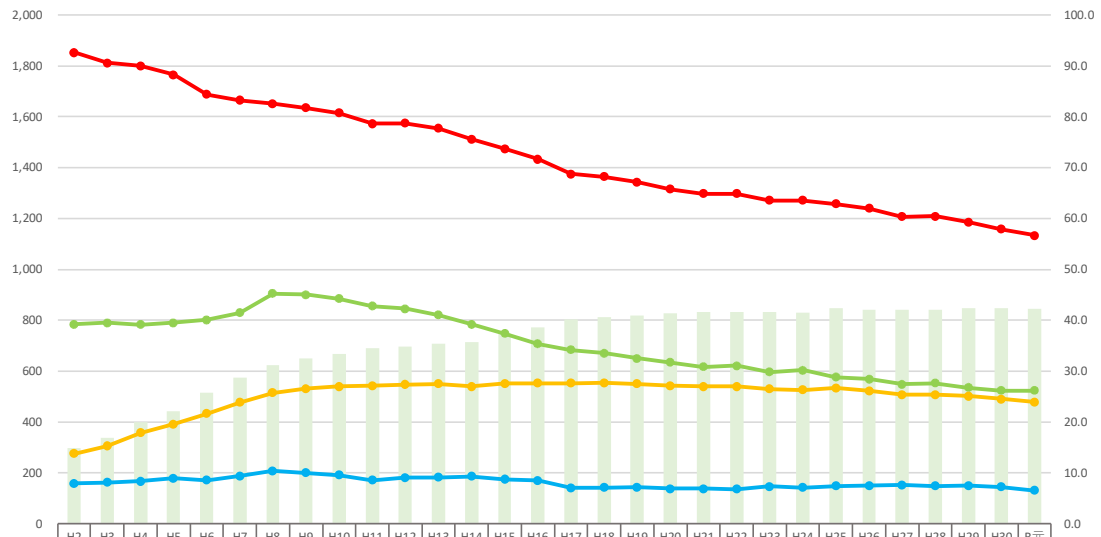


	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
八重	96	98	95	93	93	88	83	81	74	75	76	74	70	66	64	60	61	61	63	62
板谷	97	95	91	93	92	88	82	76	74	71	69	68	67	62	60	59	59	56	56	51
上米良	151	138	130	129	123	119	117	115	120	120	119	112	115	108	107	101	93	87	85	83
竹原	257	246	238	227	224	222	216	207	198	191	194	188	188	190	189	183	179	174	170	162
村所	647	657	655	629	606	579	593	593	585	584	586	579	590	594	589	573	585	583	565	563
横野	83	81	76	74	73	74	76	76	78	75	76	74	68	66	68	68	68	65	64	60
越野尾	127	125	115	117	110	98	93	92	86	79	78	80	80	78	73	73	72	67	67	64
小川	116	113	111	111	112	107	105	103	100	102	100	97	94	93	90	91	92	93	88	88

図２　地区別人口の推移（出典：住民基本台帳データ（10 月 1 日現在））

（3）年齢 3 区分別人口の推移

年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15～64 歳）、老年人口（65 歳以上）の年齢 3 区分による人口の推移は、総じて減少傾向にあります。生産年齢人口の減少が特に著しく、直近 10 年間（H22～R1）では、84%に減少しています。老齢人口は平成 18 年度をピークに減少傾向にありますが、総人口に占める割合は 40%を超え、依然増加傾向にあります。年少人口はやや減少傾向が見られます。



	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
高齢化率（%）	14.9	16.8	19.9	22.2	25.7	28.7	31.2	32.5	33.4	34.5	34.8	35.4	35.7	37.4	38.5	40.1	40.6	41.0	41.3	41.6	41.6	41.7	41.4	42.4	42.1	42.1	42.0	42.3	42.3	42.3
人口	1,852	1,811	1,800	1,765	1,688	1,664	1,651	1,635	1,615	1,572	1,574	1,553	1,511	1,473	1,433	1,375	1,365	1,343	1,315	1,297	1,298	1,272	1,272	1,257	1,240	1,208	1,209	1,186	1,158	1,133
年少（0-14）	158	163	167	178	172	187	208	201	192	171	181	183	186	174	170	141	142	144	138	138	137	146	142	148	150	152	148	149	145	130
生産年齢（15-64）	784	790	782	790	802	829	904	901	884	855	845	820	784	747	707	683	671	650	634	617	621	596	603	576	568	548	553	535	523	524
老年（65-）	276	305	358	391	434	477	515	531	539	543	547	549	539	551	552	552	554	550	543	540	540	530	527	533	522	508	508	502	490	479

図３　年齢 3 区分別人口の推移（出典：住民基本台帳データ（10 月 1 日現在））

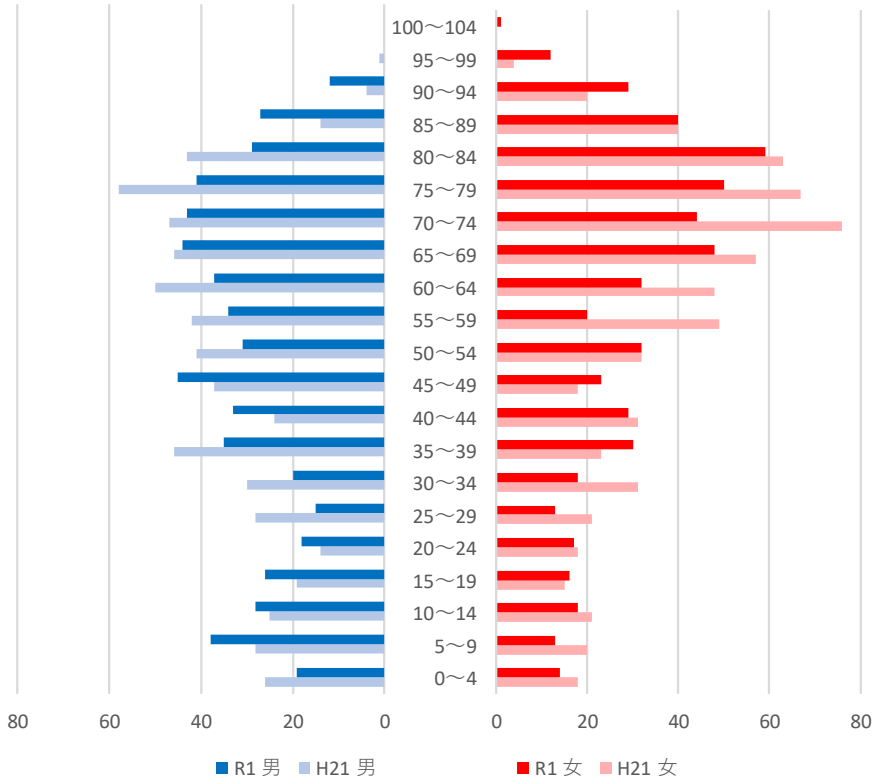
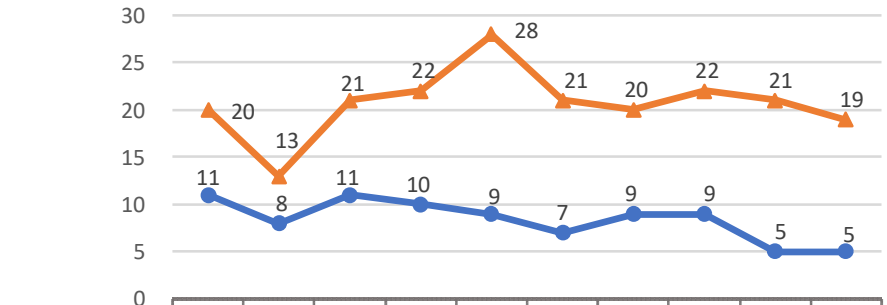


図４　年齢別人口ピラミッドの推移（出典：住民基本台帳データ（10 月 1 日現在））

（4）人口の自然動態の推移

自然動態は、死亡者数が出生者数を常に上回っており、自然減少が続いています。

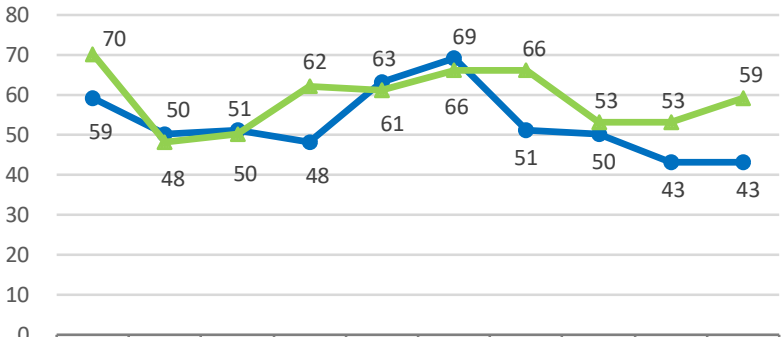


	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
出生者数	11	8	11	10	9	7	9	9	5	5
死亡者数	20	13	21	22	28	21	20	22	21	19

図５　出生者数・死亡者数の推移（出典：住民基本台帳データ）

(5) 人口の社会動態の推移

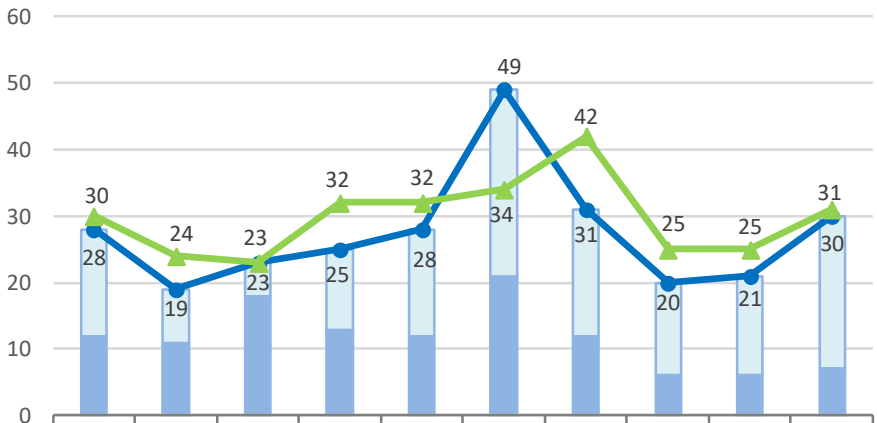
直近 10 年間の転入者数と転出者数では、転出者数の方が超過する年が多い傾向にあります。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
転入者数	59	50	51	48	63	69	51	50	43	43
転出者数	70	48	50	62	61	66	66	53	53	59

図６　転入者数・転出者数の推移（出典：住民基本台帳データ）

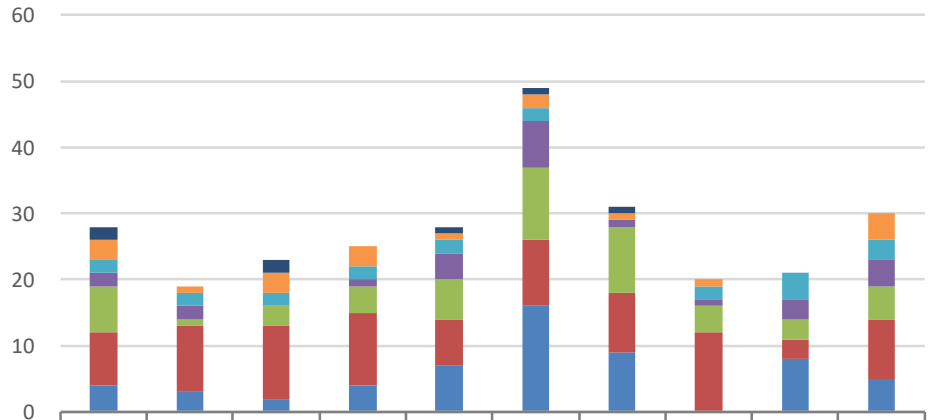
教職員、県職員、警察、医師などの定期異動者を除く転入者数及び転出者数の推移をみると、平成 24 年度、27 年度を除いて転出者数が超過しています。転入者については、I ターン者の割合が増える傾向にあります。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
Iターン	16	8	5	12	16	28	19	14	15	23
Uターン	12	11	18	13	12	21	12	6	6	7
転入計	28	19	23	25	28	49	31	20	21	30
転出計	30	24	23	32	32	34	42	25	25	31

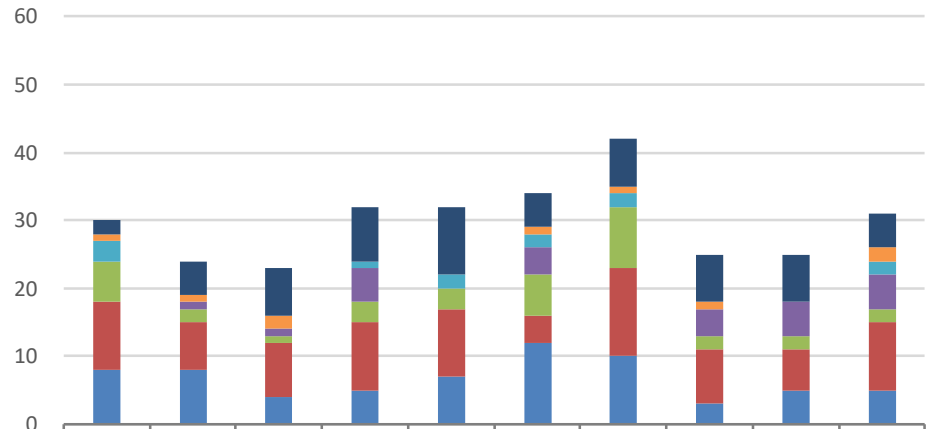
図７　転入者数・転出者数の推移【定期異動者を除く】（出典：住民基本台帳データ）

定期異動者を除く年代別の転入者数と転出者数は図８、図９のとおりとなっています。



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
70以上	2	0	2	0	1	1	1	0	0	0
60代	3	1	3	3	1	2	1	1	0	4
50代	2	2	2	2	2	2	0	2	4	3
40代	2	2	0	1	4	7	1	1	3	4
30代	7	1	3	4	6	11	10	4	3	5
20代	8	10	11	11	7	10	9	12	3	9
10代以下	4	3	2	4	7	16	9	0	8	5
転入計	28	19	23	25	28	49	31	20	21	30

図８　年代別転入者数の推移【定期異動者を除く】（出典：住民基本台帳データ）



	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
70以上	2	5	7	8	10	5	7	7	7	5
60代	1	1	2	0	0	1	1	1	0	2
50代	3	0	0	1	2	2	2	0	0	2
40代	0	1	1	5	0	4	0	4	5	5
30代	6	2	1	3	3	6	9	2	2	2
20代	10	7	8	10	10	4	13	8	6	10
10代以下	8	8	4	5	7	12	10	3	5	5
転出計	30	24	23	32	32	34	42	25	25	31

図９　年代別転出者数の推移【定期異動者を除く】（出典：住民基本台帳データ）

転入者数、転出者数ともに 10 代以下、20 代、30 代が半数以上を占める年がほとんどです。転出者数については 70 代以上でも多くなる傾向がみられます。

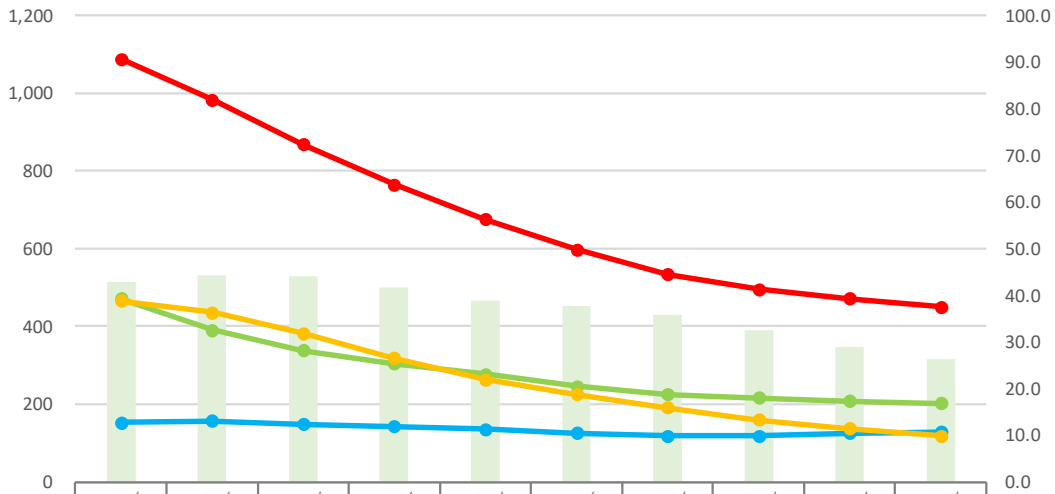
定期異動者を除く年代別の転入者数と転出者数の差をみると、10 代以下、20 代、40 代、70 代以上で転出者数が超過する傾向がみられますが、特に 70 代以上の転出者数の超過が目立ちます。

図 10　年代別転入転出者数の差の推移【定期異動者を除く】（出典：住民基本台帳データ）

２　将来人口の推計と分析

本村の現状のままでの将来人口の推計結果を以下に示します。この推計は、2015 年国勢調査時の人口等のデータを基に、(一社) 持続可能な地域社会総合研究所の「地域人口分析＆将来人口シミュレーション（コーホート変化率法)」により計算されたものです。

人口の自然動態、社会動態が現状のままであった場合、人口は、2040 年まで年間約 20 人のペースで減り続け、600 人をきっています。その後も減り続け、2060 年には 450 人となる結果になっています。年齢 3 区分別人口をみると、総じて減少傾向にありますが、2030 年付近までは老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回っています。2035 年付近からは逆転し、老年人口は減り続けるものの、生産年齢人口は減少傾向が緩やかになっていく傾向がみられます。このことから 2060 年以降は 400 人程度で推移していくのではないかと予想されます。



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
高齢化率	42.8	44.4	44.0	41.7	38.9	37.7	35.8	32.4	29.0	26.4
総人口	1,089	983	868	765	676	597	534	495	471	450
年少人口	152	157	148	142	136	126	118	119	126	129
生産年齢人口	471	390	338	304	277	246	225	216	208	202
老年人口	466	436	382	319	263	225	191	160	137	119

図 11　将来人口推計【現行推移】

（出典：(一社) 持続可能な地域社会総合研究所　地域人口分析＆将来人口シミュレーションより）

３　人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

10 年後の 2030 年までに人口が約 200 人減り 765 人となった場合、単純に平均して、村内 8 つの集落でそれぞれ 20～30 人の人口が減少することになります。この場合、まだ地域のコミュニティは維持されていると考えられますが、単独では困難になる活動が出てくる可能性があります。

20 年後の 2040 年までに人口が約 400 人減り 597 人となった場合、現在の村所地区と同規模の人口になります。人口が少ない集落においては、地域コミュニティの維持が困難になっていると

考えられます。村内商店、仕事においても立ち行かなくなるものが増え、買物等の日常生活が不便になっている可能性も考えられます。

2050 年、2060 年と人口が減少し続ける中で、状況は更に悪化すると考えられるため、まずは人口問題対策の着実な実施を図り、生活を維持できるための必要な仕事の創出と地域内での経済循環を促進する仕組みを構築する必要があります。

Ⅱ　人口の将来展望

1　将来展望に必要な調査・分析

ここでは、村民アンケートを基にした意識調査の結果を示します。

（1）村民の結婚の状況と結婚への意識

選択肢	回答数
結婚して15年未満	88
結婚して15年以上	257
未婚だがパートナー有	2
結婚後、死別・離婚	77
未婚	70
未回答または判別不能	33
計	527

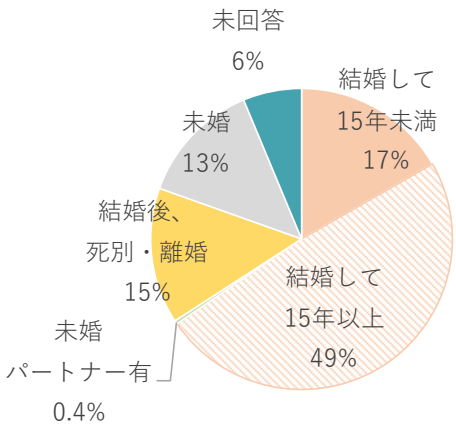


図 12　村民の結婚の状況（出典：村民アンケート結果より）

13%の未婚者 70 人のうち、61%に結婚の予定や意思があるようです（図 13）。また、結婚しない理由として、「相手がいない」「出会いがない」が半数を占めています（図 14）。

若者の定着を図る上でも、集いの場や出会いの場の創出に対する支援も更に必要になってくると考えられます

選択肢	回答数
結婚する予定がある	3
すぐにでも結婚したい	5
いずれは結婚したい	35
結婚するつもりはない	11
不明	16
計	70

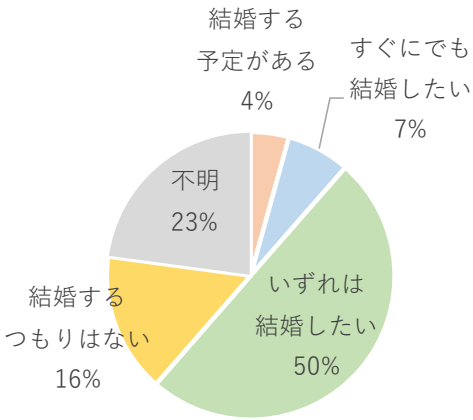


図 13　未婚者の結婚への意識（出典：村民アンケート結果より）

結婚しない理由	回答数
相手がいない	24
出会いがない	15
経済的な不安	6
結婚後の住居がない	0
結婚するつもりはない	11
その他	14
無記入	8
計	78

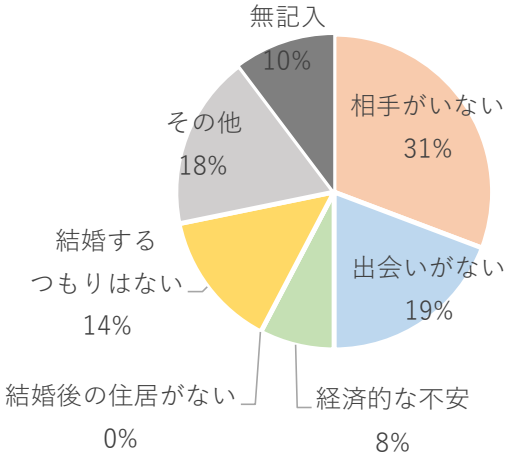


図 14　未婚者の結婚しない理由【複数回答】（出典：村民アンケート結果より）

（2）希望する子どもの数と子育て環境

結婚して 15 年未満の村民に行った「希望する子どもの数」では、3 人が 37%と一番多く、子どもを多く持とうとする傾向がみられます。希望する子どもの数の総数は 172 人、現在の子どもの数の総数は 50 人となっており、夫婦の重複があるとしても、現状で、潜在的に今後約 60 人の子どもが誕生する可能性があると推測されます。

希望する子どもの数	回答数
0人	13
1人	18
2人	24
3人	34
4人	2
5人以上	0
計	91

現在の子どもの数	回答数
1人	4
2人	11
3人	5
4人	1
5人	1
6人	0
計	22

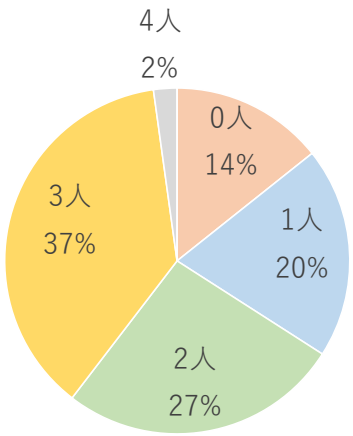


図 15　希望する子どもの数と現在の子どもの数（出典：村民アンケート結果より）

村内で結婚や子育てをする上での不安が特にないという人も約 1/4 いますが、各選択肢に対して不安だと感じる人は多いようです（図 16）。

特に、小児・産科医療、経済的な問題に不安を感じている人が多くみられます。I ターン者が増えてくると、祖父母が近くにいないことから、保育サービスや出産育児のサポートについても不安に感じる人が多くなる可能性も考えられます。

結婚や子育てへの不安	回答数
小児医療	92
産科医療	64
保育サービス	28
出産育児のサポート	36
住居	55
雇用	61
経済的な不安	80
その他	15
特にない	132
計	563

その他の内容
子どもが高校へ進学した時の下宿先がない
村外に住む親の将来的な介護や世話
コロナの心配
母子供の交流会や子育ての悩み相談する人がいない
教育、体験
河川の氾濫、がけ・土砂崩れ
高校で親元を離れないといけない事
学力の維持、複式学級
孤立・県外にいる子供との交流（コロナ）
食料品や学校で急に必要になる文具等の買い物

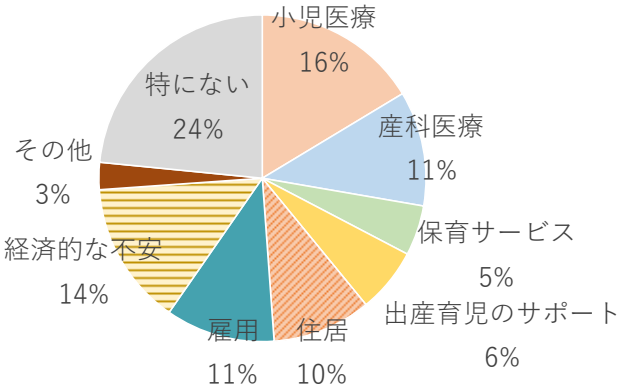


図 16　村内で結婚や子育てをする上での不安【複数回答】（出典：村民アンケート結果より）

(3) 子どもの帰村に対する考え

村民の 44%は、子どもに西米良村に帰ってきて欲しいと考えているようですが、実際に帰ってきて欲しいと言える人は 27%に止まっています。

帰ってきて欲しいと言えない理由としては、仕事や賃金水準などの問題が一番に上がっています。コメントの中には、仕事の選択や本人の意思を尊重したいといった意見も多くみられました。村に帰ってくることが良いということではありませんが、「帰ってきて欲しい」と胸を張って言える大人が増えるような環境を整えることも必要だと考えられます。

選択肢	回答数
帰ってきて欲しい	231
そうは思わない	82
わからない	153
未回答または判別不能	61
計	527

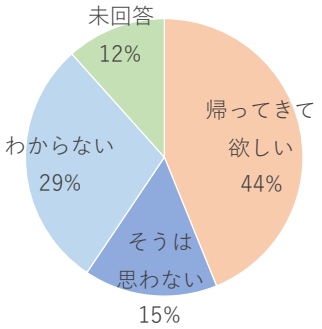


図 17　子どもに西米良村に帰ってきて欲しいと思うか（出典：村民アンケート結果より）

選択肢	回答数
言える	143
言えない（わからない）	331
未回答または判別不能	53
計	527

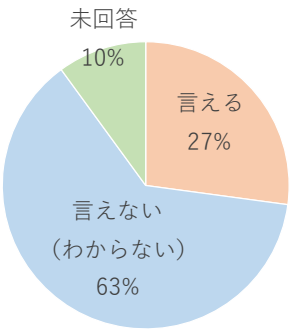


図 18　子どもに西米良村に帰ってきて欲しいと言えるか（出典：村民アンケート結果より）

理由	回答数
住む場所	102
仕事	261
賃金水準	116
人間関係	78
地区の付き合い	81
村の将来が不安	94
子育て環境	39
生活が不便	98
村外の方が幸せだと思う	40
その他	25
計	934

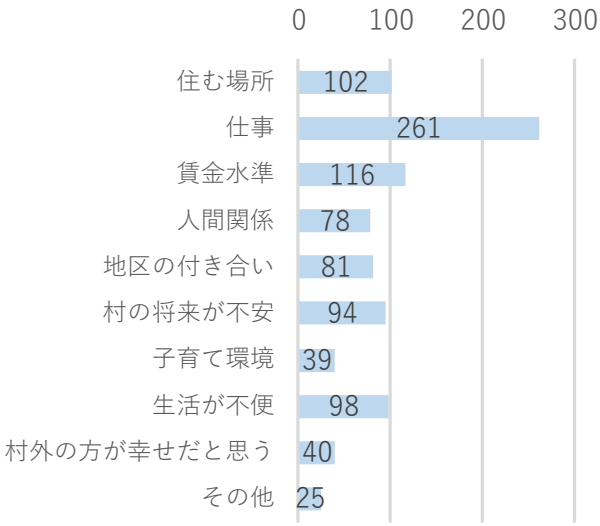


図 19　子どもに帰ってきて欲しいと言えない理由【複数回答】（出典：村民アンケート結果より）

２　目指すべき将来の方向

日本全国で人口減少が問題とされる中、西米良村だけが人口を維持・増加させることは困難だと考えられます。人口減少が避けられないとしても、そのスピードを緩やかにし、少ない人口であっても、ここで暮らしたいと思う村民が住み続けられるような村づくりを進めていくことが重要です。

まずは、村民が暮らしやすい環境、若者が暮らし子どもを産み育てやすい環境を、仕事、住環境、制度の面から整える必要があります。その上で、移住したいと考える人が移住し、定住できるような体制を整えることにより、本村の人口問題に立ち向かって行きます。

また、住んでいなくても村に関わってくれる関係人口の輪を広げ、強化していくことで本村の存在価値を高め、村の活力につなげていく取組みも実施していく必要があります。

３　人口の将来展望

図 20 は、2015 年の国勢調査人口等を基に（一社）持続可能な地域社会総合研究所の「地域人口分析＆将来人口シミュレーション（コーホート変化率法）」により計算された 3 パターンの人口推計結果です。出生率（1.62）と 10 代後半の流出率（30.2%）は現状のまま、定住人口の条件のみを変えてシミュレーションしています。

現行推移：定住増加人口なし

シミュレーション①：若年世帯（20 代前半夫婦）　1 世帯（2 人）が毎年定住

シミュレーション②：若年世帯（20 代前半夫婦）　2 世帯（4 人）が毎年定住

現行推移については、前述したとおりです（図 11）。

シミュレーション①については、人口は 2050 年まで緩やかに減少し続けるものの 700 人程度で下げ止まり、増加傾向に転じていきます。

シミュレーション②については、人口減少が更に緩やかになり 2045 年に 900 人程度で下げ止まり、増加傾向に転じていきます。

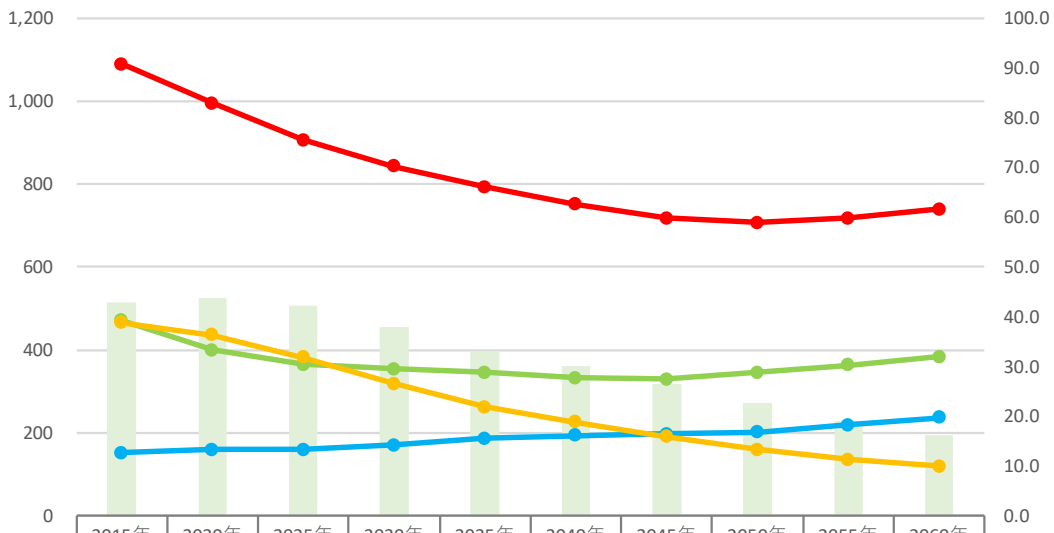
その他に、子連れ世帯（30 代前半夫婦＋4 歳以下子ども）、定年退職世帯（60 代前半夫婦）の条件を変えてシミュレーションしてみましたが、人口に及ぼす影響が小さいことから、定住者としては、20 代前半夫婦のようにできるだけ若い世代を呼び込むことが必要です。

これらを踏まえて、将来的には 1,000 人維持を目指しますが、シミュレーション①を当面の目標とし、若年世帯の増加（毎年 1 世帯以上）を目指して各種施策に取り組むこととします。定住人口の増加の他、出生率の増加や流出率の減少対策を講じれば、更なる効果が見込まれます。

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
高齢化率（現行推移）	42.8	44.4	44.0	41.7	38.9	37.7	35.8	32.4	29.0	26.4
高齢化率（シミュレーション①）	42.8	43.8	42.2	37.9	33.1	30.0	26.6	22.7	19.0	16.1
高齢化率（シミュレーション②）	42.8	43.3	40.5	34.8	28.9	24.9	21.2	17.5	14.2	11.6
総人口（現行推移）	1,089	983	868	765	676	597	534	495	471	450
総人口（シミュレーション①）	1,089	995	906	842	793	751	718	707	718	739
総人口（シミュレーション②）	1,089	1,008	944	918	910	904	902	918	966	1,028

図 20　将来人口推計【現行推移とシミュレーション】

（出典：（一社）持続可能な地域社会総合研究所　地域人口分析＆将来人口シミュレーションより）



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
高齢化率	42.8	43.8	42.2	37.9	33.1	30.0	26.6	22.7	19.0	16.1
総人口	1,089	995	906	842	793	751	718	707	718	739
年少人口	152	160	159	170	186	194	197	202	219	237
生産年齢人口	471	399	365	353	345	332	330	345	363	383
老年人口	466	436	382	319	262	225	191	160	136	119

図 21　将来人口推計　年齢 3 区分別人口の推移【シミュレーション①】

（出典：（一社）持続可能な地域社会総合研究所　地域人口分析＆将来人口シミュレーションより）